

# イギリスの子育て支援体制 —オックスフォードにおける実態調査より—

吉 田 佳 代

## 概 要

女性の社会進出に伴い、イギリスにおける子育て支援体制はここ15年ほどで大変意義のある変化を社会にもたらした。本研究の前半では、まずイングランド地方を中心とするイギリスの福祉制度や子育て環境に影響を与えた社会の変化について歴史的観点より述べ、次に教育問題を重視したブレア政権による主要な保育政策を紹介する。公的保育サービスの拡大や子育て支援の質の向上を目標とし、代表的な取組みの一つとしては Sure Start Programme の一環である Children's Centre の設立が挙げられる。さらに後半の章では、イギリスのオックスフォードにおける Children's Centre やその他の保育・教育施設を実際に著者が訪問し、そこで実施されている活動や提供されているサービスなどの実態を調査する。本研究の目的は、イギリスにおける子育て支援体制を研究することで、我が国のそれと比較し、保育政策において共通課題を見出すことで、日本が抱える問題を解決する際の参考とすることである。

*As more women in the UK have chosen to work, the childcare support system has gone through significant development in the last 15 years. In the first half of the study, I will explain, from a historical viewpoint, the impact of social changes on the welfare system and the childcare environment, especially in England. Then, I would like to explore some major childcare reforms introduced by the Blair Administration which focused on problems in educational fields. The government aimed to improve the quality of childcare support service and to expand the service to more public areas. One of the successful projects was the Sure Start Programme which established a number of Children's Centres across England. In the following chapter, I will report on how the childcare support service is usually provided from observations made during visits to a Children's Centre, some other nurseries and child support related facilities in Oxfordshire. The purpose of this study is to describe representative childcare support services in the UK in order to compare them with services in Japan, and to find common solutions for similar problems in both countries.*

キーワード：イギリス、子育て支援、児童センター、幼児教育、初期教育  
England, childcare support, children's centre, child education, early education

## I はじめに

多くの先進工業国は少子化傾向にあり、ヨーロッパにおいても保育政策を含む福祉制度の充実に早くから力を入れ、少子化問題に対応してきた国も存在するが、イギリスは比較的保育関連の政策に取り組むのが遅い方であった。まず、その根拠となるイギリスの歴史的背景について言及し、次に、社会に大きな影響を与えたブレア政権による画期的な保育政策を紹介する。本研究では、特にイングランド地方における子育て環境や保育サービスに焦点をあて、提供されてきた支援の種類や内容、政府によって定められた基準等について述べ、子育て支援政策による保育サービスの拡大と質の向上が社会をいかに充実させたかについて説明する。また、後半はその実態を調査する目的でオックスフォードのChildren's Centreや保育所を訪問し、実際にどのような子育て支援が提供されているのかを紹介したい。

## II イギリス政府による子育て支援政策

### 1. 保育政策に影響を与えた歴史的背景

サッチャー政権が誕生するまでのイギリスでは「男性稼ぎ主モデル」を想定したベヴァリッジ型<sup>1</sup>の福祉国家制度を採用しており、働く女性に対する社会的支援体制が整っていなかった。1970年代の労働党政権では、家族構成の多様化によって従来の福祉制度が成立しなくなってきたため、児童手当などの経済的な子育て支援は実施したが、公的な保育サービスが拡大されることはなかった。1979年に始まったサッチャーの保守党政権では、国家福祉による保護が国民の依存体質を助長すると考え、労働分野の規制緩和を進めることにより、女性の社会進出も促すことになった。それに伴い育児や介護の責任を抱えながら働く女性も増加し、より柔軟な働き方について関心が高まっていった（平岡 2003, 所 2007）。1990年後半には「ワーク・ライフ・バランス」に関する研究も開始されるようになり、1997年に誕生したブレア政権は、仕事と幼児教育、家庭生活の調和を重視し、それまでの保育・幼児教育の在り方を抜本的に変えていく政策を推し進めていった（Lewis and Campbell 2007）。具体的な政策内容については以下に述べるとする。

### 2. ブレア政権における保育政策

ブレア政権は教育を最重要課題とし、「子供を育てる最も確実な手段として家庭生活を支援する」と述べている。そして、政権設立翌年の1998年5月に、子育て支援に関する「全国チャイルド・ケア戦略（National Childcare Strategy: Meeting the childcare challenge）」

---

1 ベヴァリッジ型：1942年チャーチル政権の時にウィリアム・ベヴァリッジが提案した福祉国家政策。「揺りかごから墓場まで」を理念とし、イギリスにおける戦後の福祉政策の基盤となった。

を提示した。その中で、①保育の質の向上、②経済的に負担可能な保育サービスの提供、③保育施設等の定員の増大（3－4歳児の無料幼児教育の提供等）を三要素としている（Alcock 2003, Seldon and Kavanagh 2005）。当初、社会福祉の中でも特に公的保育サービスの供給が遅れており、Childminder<sup>2</sup>（家庭保育員）による子育て支援が主流であったが、質・量共に個人差があり問題視されてきた。ブレア政権はこの問題を重要視し、1998年の「全国チャイルド・ケア戦略」を皮切りに公的保育サービスの向上と拡大を進め、保育施設を増やすことで、2005年には以前の2倍以上の子供の受け入れを可能にした<sup>3</sup>。また、2000年3月には「ワーク・ライフ・バランス・キャンペーン」の開始を発表し、民間企業に対しても意識改革が業績の向上につながることを認識させ、キャンペーンを導入する企業を奨励した。同時に、労働条件に関する法改正や保育に関する経済的支援も推し進め、2002年の雇用法により、6歳未満の子供を持つ親が雇用主に対して「フレキシブル・ワーキングを要求できる権利」が認められ、より柔軟な働き方が選択できるようになった（Cohen et al. 2004, Lewis and Campbell 2007）。2004年には、保育サービスの10カ年計画として、1998年の「全国チャイルド・ケア戦略」と同じ三原則に基づいた「チャイルド・ケア10年戦略（Choice for Parents, the Best Start for Children: A ten year strategy for childcare）」を発表し、子育て環境を支援するさらなるサービスの充実を目指した。これらの改革を通してブレア政権は、全ての子供が人生最良のスタートをきれるようにすることや、親が仕事と家庭の調和がとれるように就労形態を変化させ、働く母親もキャリアを積めるようにすることを常に目標としてきた（Seldon and Kavanagh 2005, Hill 2006）。その中で重要な役割を果たしてきた「シュア・スタート・プログラム（Sure Start Programme）」に関して、次に内容を詳しく紹介する。

### 3. 子育て環境を支える Sure Start Programme

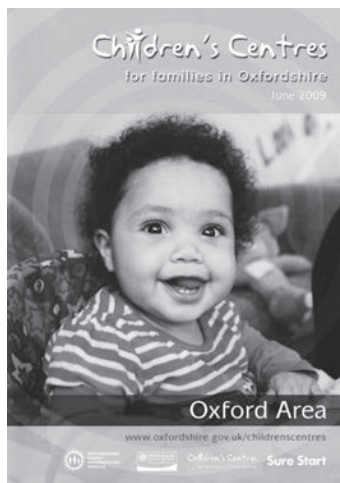
イギリスの子育て支援において、1999年に開始された「シュア・スタート・プログラム（Sure Start Programme）」は、長年にわたり社会に大きく貢献してきた。就学前の保育・早期教育に力を入れることで、その後の子供の発達や学習成果等に大きく影響を与えるという考えを基に Sure Start と名付けられた政策である。ただし、この事業の対象はイングランド地方のみであり、スコットランドやウェールズ、北アイルランドにおいても各自治政府により同等の政策が実施されている（Skinner 2005）。そもそも、このプログラムは1998年の「全国チャイルド・ケア戦略」の導入に先立ち、1997年12月より「就学前児童モデルセンター（Early Excellence Centre）」を全国各地に設置し、保育に関する統合的なサービスを提供することにより開始した。2003年までに9500万ポンド（約182億円）が投入され、その後もモデルセンターや地方に以前から存在する施設と統合しつつ Sure

2 Childminder（家庭保育員）：I－4、1参照。自宅で1日2時間以上、複数の子供の保育に携わる日本の保育ママのような特に資格を保持しない保育者。

3 I－5、表B参照。

Start Children's Centre を増設していき、5歳児以下の子供とその親に「継ぎ目のない」子育て支援サービスや情報を提供してきた（岩間 2006）。図1のChildren's Centreの案内から“Sure Start”の文字が確認できるように（図右下）、イギリス各地のChildren's CentreにてSure Start Programmeによる子育て支援活動や関連情報がこのようなパンフレットや掲示板等で紹介されている。具体的な活動内容については、Ⅲ-1で実際に著者が訪問したChildren's Centreを紹介する際に述べるとする。

図1：Children's Centreの案内パンフレット



（Marston Northway Children's Centre 提供）

#### 4. 子育て支援の種類と内容

イギリスでは伝統的に、幼少期の保育は家庭で行うべきであるという意識が強く、日本でいう「三歳児神話」<sup>4</sup>に共通する意識を持つ人が比較的多かったようである。それゆえ、就労家庭ではChildminder<sup>2</sup>と呼ばれる家庭保育員やベビーシッターなどの、家庭における代替保育に依存することが主であった（岩間 2006, 池谷 2011）。しかし、上に述べたブレア政権による様々な保育政策により、保育に関する基準設定も整備され、保育サービスの質の向上や均一化が進むことで、子育て支援を受ける場所や選択肢も広がったといえる。そこで、現在イギリスで提供される子育て支援<sup>5</sup>として、主に「保育」を目的とするものと「教育」を目的とするものに分類して以下に紹介する。前者の場合、基本となる法律は「Children Act（児童法）1989」と「Childcare Act（保育法）2006」であり、後者の場合は「Children Act（児童法）1989」と「Education Act（教育法）1997」が基本となる法律である（須貝 2009）。

4 三歳児神話：子供が三歳くらいになるまでは、母親は我が子の保育に専念するほうが望ましいという考え。日本赤ちゃん学会（<http://www.crn.or.jp/LABO/BABY/SCIENCE/OHINATA/>）参照。

5 Oxfordshire County Council：Oxfordshireと呼ばれるオックスフォード地域における地方自治体のホームページ（<http://www.oxfordshire.gov.uk/cms/public-site/children-education-and-families>）参照。

#### 4.1 保育を主な目的とするもの

- 1) **Day Nursery**: 0歳児（生後2カ月）から就学までの5歳以下の子供を対象に、全日、又は、一定時間の保育を行う施設である。教育の提供を目的とする施設に比べ、子供を預けられる時間が比較的長く（一般的に午前8時から午後6時まで）、夏休みなど学校が休みの期間も運営しており日本の保育所に相当する。地方自治体が設置主体である保育所は少なく、私立、非営利団体などの民間事業者が主であるが、全て OFSTED（Office for Standards in Education）<sup>6</sup>という政府の教育基準監査院に登録されており、定期的に監査を受ける。
- 2) **Childminder**: 家庭保育員が自宅で1日2時間以上、複数の子供の保育に携わる。通常8歳未満の子供を対象とし、5歳以下の子供なら1人3人まで預かることができるが、自分の子を同時に世話することはできない。また、午後6時から午前2時までは報酬を得て働くことはできない。Childminder も Children Act（児童法）に基づいて OFSTED に登録する義務がある。Childminder による保育は、特に戦後は保育所があまり存在せず、主要な形態の子育て支援であった。
- 3) **Babysitter / Nanny / Au pairs**: Babysitter（ベビーシッター）は預かる子供の家で、Nanny（ナニー）は自分の自宅で保育に携わり、依頼者によって就労形態や時間は様々である。Au pairs（オウ・ペア）は一般的に半年以上その国に滞在する留学生で、食事と部屋代の代わりに住み込みで保育の手助けをする者のことを指す。保育に携わる時間は1日5時間未満とされ、週に最低2日は全く保育に携わることはできない。これらの保育者は全て OFSTED に登録する必要はなく、監査も受けることはないが、保育関連の資格を持ったベビーシッターやナニーも少なくない。
- 4) **Children's Centre**: 1-3でも述べたが、Sure Start Programme の一環として設立された児童センターの一種である。一般的に5歳以下の子供の保育施設の提供と、保育者と共に参加できる催し等が実施される。保護者向けの子育て情報や地域活動の案内など、総合的なサービスを提供している。小学校に付設していることが多いが、学校の運営時間や活動内容とはほとんど関連がない。
- 5) **Play Group**: 非営利団体や保護者によるグループが、2歳半から5歳以下の未就児を対象に、一定期間・時間（1日2-3時間）の保育の場を提供する。当初、就学前保育の定員が少なかったため、保護者が自主的に始めた活動を基盤としているところが多いが、この Play Group も児童法に基づき OFSTED に登録される。また、5歳児以上の就学児対象の Play Group も同様に存在する。
- 6) **Out of School Club**: 主に学校に通っている子供を対象とし、スポーツや工芸、音楽などの課外活動などをしながら託児する。日本の幼稚園における延長保育、小学校における学童保育に相当する。場所は、学校の敷地や地域のコミュニティーセンター、

6 OFSTED (Office for Standards in Education, Children's Services and Skills): 1992年の「教育法 (School Education Act)」に基づき設置された教育基準監査院。イギリスの学校監査を実施する独立した政府機関。



教会など様々である。その他、学内で就学前の30分程度朝食をとるなどして過ごす Breakfast Club、学内で放課後に宿題や娯楽活動をして過ごす After School Club、校内外の施設で学校が休みの期間に実施される Holiday Club（一般的に1 - 2週間）などがあり、民間やボランティアによる組織で運営される場合がほとんどである。

#### 4.2 教育を目標とする施設

一般的に、イギリスの公立小学校へは、9月1日の時点で5歳の子供が入学する。したがって、その年齢に満たない子供は、上記の保育関連サービスやこれから説明する就学前の初期教育に参加することになる。大半が小学校付設で、学校と同じ期間や時間帯に（9時から15時半まで）運営されるため夏休みなどの長期休暇があり、OFSTED への登録が義務づけられている。

- 1) **Nursery School / Nursery Class** : 日本の幼稚園に相当し、3 - 4歳の子供を受け入れる。独特の教育理念を持つモンテッソーリ<sup>7</sup>などの教育団体も含まれる。公立の場合、1日3時間週5日無料で利用できるが、私立や保育所に通う子供に対しては、1人あたり1日3時間分の補助金が地方自治体から支給され、保護者にはその補助金の金額が差し引かれた学費が請求される（図2参照）。
- 2) **Reception**: 4 - 5歳の子供を対象とし、日本の幼稚園における年長クラスに相当する。読み書き、算数の学習が開始され、小学校入学に向けての準備が行われる。公立と私立ともに国の教育カリキュラムに沿った学習内容が定められている。
- 3) **Pre-school** : 非営利団体や親によるボランティアで運営されており、最低1名の資格保持者を必要とする。地域のコミュニティーセンターや学校の敷地を利用し、3 - 5歳の子供が遊びを通して様々な活動に取組む。利用時間は場所によって午前中のみのところもあるが、2時間以上運営する場合は OFSTED への登録が必要とされる。

図2 : 3-4歳児無料初期教育の案内



(Marston Northway Children's Centre 提供)

7 モンテッソーリ:「子供は自ら成長、発達する力を持って生まれてくるため、大人は教える人ではなく、子供たちの自主的な活動を援助する存在」という理念に基づく教育。イタリア人の女性医学博士マリア・モンテッソーリによる教育方針。日本モンテッソーリ教育総合研究所(<http://sainou.or.jp/montessori/>)参照。

イギリスで評価される保育政策のうち、3－4歳児対象の無料初期教育があり、図2はその案内パンフレットである。上で述べた Day Nursery や Nursery School 等、保育所や幼稚園への費用を補助する目的で、2003年より4歳児を対象に週12.5時間（1日2.5時間、5日間）の支援より開始し、翌年に3歳児にも支援の適用を拡大した。補助金の支給も2006年より年間33週から38週に、2007年より1日3時間、つまり週15時間の無料教育が提供されることになった。公立施設の場合1日3時間5日無料で利用できるが、私立や保育所の場合は、その補助金が差し引かれた費用が保護者に請求される（埋橋 2007, 山田 2007）。

#### 4.3 保育・教育施設における基準

「Children Act（児童法）1989」に基づき、保育の事業者や Childminder など保育や幼児教育に携わる者は全国基準の定める要件を満たす必要がある。この基準は「8歳未満の保育及び、家庭的保育のための基準（National Standards for under 8s Day Care and Childminding）」というもので、政府が事業者の提供する保育の質の保証と均一化を目指したものである。上で述べた全日保育や学童保育、Childminder など OFSTED に登録した施設や保育者は、以下の14項目で構成された基準に従って保育を提供することになっている（Henshaw 2006）。

表A：全国基準の14項目

1 適切なスタッフ	8 食物、飲料
2 組織（職員の配置等）	9 機会の平等（差別のない実践、保育サービス提供の平等）
3 ケア、学習、遊び	10 児童の特別なニーズ（特別教育の必要性）
4 物理的環境	11 児童の行動の指導
5 設備	12 親および養育者との協働
6 安全性	13 児童の保護
7 健康（健康の増進、疫病の予防等）	14 文章化（記録の保持等）

例えば、基準項目2「組織」の詳細として、Day Nursery（全日保育）では1クラスが26名を超えてはならないとされ、職員1名が保育する人数として、2歳未満児は3名、2歳児は4名、3－7歳児は8名という上限が設定されている。また、3－5歳児対象のNursery School / Nursery Class（幼稚園）では、子供20名に対して職員2名を設置することになっている。基準項目3の「ケア、学習、遊び」においては、児童の好奇心や想像力、社会的関係、言語や数学的思考を発達させる活動や遊びの機会を提供するように述べられており、これらの内容に基づいた保育を行うように定められている（岩間 2006, Henshaw 2006）。

#### 5. 保育政策による子育て支援の推移

これまでは、主にブレア政権以降の保育政策に焦点を当て、具体的にどのような子育て

支援がなされ、いかに社会に影響を与えてきたかについて述べてきたが、次は統計による数的データと共に、保育に関わる施設や事業者等の数、その定員がどのように変化してきたのかを見ていきたい。

表B：保育サービス提供事業者の数と定員の推移

保育サービス形態	1992年	1997年	2003年	2005年	2011年
Childminder [家庭保育員] (定員)	109,200 (254,300)	98,500 (365,200)	68,200 (300,900)	71,500 (321,200)	57,500 (236,900)
Day Nursery [全日保育] (定員)	4,100 (116,800)	6,100 (193,800)	9,600 (381,600)	12,900 (553,100)	18,150 (750,300)
Nursery School・Pre-school [幼稚園、半日保育] (定員)	17,500 (414,500)	15,800 (383,700)	11,600 (280,800)	9,900 (241,100)	9,000 (312,800)
Out of School Club [延長保育、学童保育] (定員)	350 (11,900)	2,600 (78,700)	8,000 (285,400)	10,300 (361,400)	17,900 (608,400)

\* ①1992年/1997年：Statistics of Education: Children's Day Care Facilities. National Statistics Bulletin, No. 08 (1). DfES (Department for Education and Skills), ②2003年：Registered childcare providers and places in England, 31 March, 2003. OFSTED (Office for Standards in Education), ③2005年：Quarterly Childcare Statistics as at 31 December 2005. OFSTED,

④2011年：Childcare and Early Years Provider Survey 2011. DfE (Department for Education).

\* 2003年以降は OFSTED (教育基準監査院) が統計を作成し、8歳未満の子供を対象にした数字であるが、それ以前は、教育技術省、または、その前身によるもので Out of School Club の数を除いて5歳未満の子供を対象とした数字。

表Bによると、ブレア政権誕生の1997年以降、特に Day Nursery (全日保育) や Out of School Club (延長保育、学童保育) の規模が拡大していることがわかる。ブレア政権成立5年前の1992年には、Day Nursery (全日保育) を提供する事業者(施設)数はほんの4,100であったが、約10年後の2003年には2倍以上の9,600に増え、受け入れ児童数(定員)は3倍以上となっている。また、Out of School Club に関しても、1992年にはほんの350の事業者しか存在しなかったが、2003年には20倍以上の8,000団体に膨れ上がり、受け入れ児童数も25倍以上に増加している。それに対して、Childminder (家庭保育員) や Nursery School / Pre-school (幼稚園、半日保育) の数は減少傾向にあり、従来の短時間保育から親の就労に対応した全日保育や延長保育の需要がかなり高まったことが顕著にみてとれる。

### Ⅲ オックスフォードの子育て支援体制

前章では、歴史的背景やブレア政権の政策に焦点を置き、イギリス政府が取組んできた主な保育政策による社会の変化がいかに子育て環境に影響を与えたかについて言及した。本章では、実際に子育て支援が提供されている施設を訪問し、そこで実施されている活動

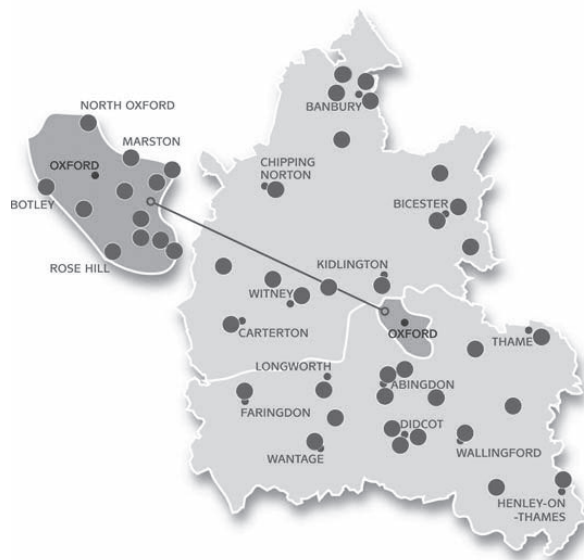


やサービス提供の実態などを紹介する。

### 1. オックスフォードの Children's Centre

オックスフォードの地方自治体（Oxfordshire County Council<sup>5</sup>）によれば、Oxfordshire と呼ばれるオックスフォード近辺地域には Children's Centre が44ヶ所設置されており、図3より中心部の Central Oxford 地域に12ヶ所、北部の North Oxfordshire に16ヶ所、南部の South Oxfordshire に16ヶ所存在することがわかる。本研究では Central Oxford の地域に焦点をあて、一例として Marston Northway Children's Centre を紹介したい。

図3：Oxfordshire における Children's Centre の位置



(Oxfordshire County Council<sup>5</sup>提供)

上で述べたように、Children's Centre は小学校に付設しているものが多く、Marston Northway Children's Centre も New Marston Primary School に隣接していることが以下の図4の写真より見て取れる。その近隣に住んでいる家族やベビーシッター、Childminder も初回利用日に登録さえすれば、その後年度が変わっても無料で利用することが可能である。

図5の写真は Marston Northway Children's Centre の建物であり、背後には遊具のある屋外の遊び場とベビーカー置き場（10台ほどの収納が可能）が設置されている。小学校と共有している敷地のため建物の前には20台以上の車が十分駐車できる場所がある。中に入ると受付と様々な保育関連の情報が掲載されているパンフレットなどが置いてあり、登録のみならず資料、情報の入手は全て無料である。

図4：Children's Centre の案内表示



図6：Children's Centre の受付



図5：Children's Centre の建物



図7：Children's Centre で提供されるパンフレット



Children's Centre には、乳幼児から遊べるおもちゃや絵本などが豊富にあり、工芸などの創作活動もできるよう資材も揃っていて全て無料で使用できる。また、日によっては簡単な昼食が提供され、任意ではあるが寄付目的で数ポンド（1 - 2 ポンド：160 - 320円程度）の支払いを求められる。運営は数名のボランティアによってなされており、常時3名程度が実施される活動や催し物、昼食の準備などに携わる。時々、Developer と呼ばれるスタッフが派遣され、施設や取組み内容の改善に関する調査が行われており、活動のスケジュールも年に4回、季節に応じて更新される。

図8：Children's Centre 内の部屋A



図9：Children's Centre 内の部屋B



Children's Centre 内はかなり広く、図8、9より20名以上の親子が入っても十分な大きさであることがわかる。子供が利用している時の写真は掲載できないが、毎週開放されている時間帯はほぼ満員である。Marston Northway Children's Centre のスケジュールによると、月曜日（9：30－12：45）、火曜日（10：30－12：30）、木曜日（11：00－13：30）に子供を連れて遊ぶ“Stay & Play”というセッションがあり、その他の時間は、妊婦向けの“Baby & Me”、生まれて数ヶ月の赤ちゃんに参加する“Babies & Bouncers”や“Baby Cafe”、父親向けの“Dynamic Dad's”やChildmindersがネットワークづくりに使える“Childminders Group”など、月曜から土曜までぎっしりと催し物が埋まっている（Appendix 参照）。図10、11はそれら活動案内の一部である。

図10：妊婦向けの活動“Baby &amp; Me”の案内



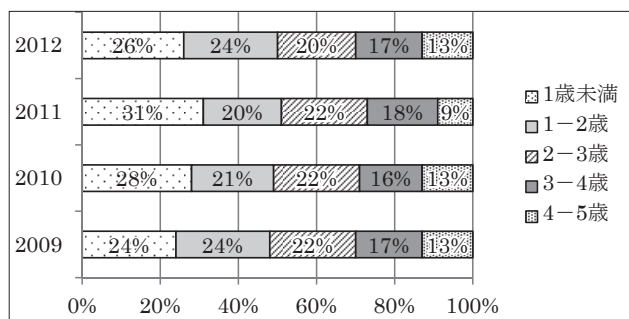
図11：父子向けの活動“Dynamic Dad's”の案内



資料：Marston Northway Children's Centre 提供

ほとんどの Children's Centre はどの地域からでも歩いて行ける程度の間隔で設置されており、子育てする上で非常に役立つ施設といえる。実際、Marston Northway Children's Centre より提供された資料によると、Central Oxford 地域の Children's Centre における登録者は2011年に664名、2012年に781名存在し、かなりの人が利用していることが推測される。利用者の年齢層に関しては、以下の表Cのよると2歳未満の子供と同伴者の割合が約50%を占めている。3歳から無料の初期教育が開始されるため、保育所や幼稚園など他の施設を利用するという選択肢も増え、年齢が上がるにつれ Children's Centre 利用者の割合は減っている。

表C：Central Oxford 地域における Children's Centre の子供の利用者年齢



資料：Marston Northway Children's Centre 提供

Children's Centre は主に乳児から就学前の5歳児を対象としているが、就学している5歳から12歳の子供対しても数多くの Play Group が存在し、Marston Northway Children's Centre から歩いて5分ほどの場所に Northway Kids Club という団体が Tower Playbase と呼ばれる施設で活動している（図12、13参照）。平日は放課後の15時から18時くらいまで開放されており、簡単な遊具のある屋外の遊び場もある。Oxfordshire にはこのような Play Group が約35団体存在し、夏休みなどに運営する Holiday Scheme は有料のところが多いが、様々な教育活動を提供している。

図12：Tower Playbase の施設A



図13：Tower Playbase の施設B



## 2. オックスフォードの Day Nursery

第I章で述べたように、イギリスでは民間事業主によって運営される Day Nursery（保育所）がほとんどであり、日本と同じように特に3歳未満児の受入れに関しては、場所にもよるが1年程前から申込んでも空きがない場合も珍しくない。ただ、日本のように保護者の就労証明書を地方自治体経由で提出する必要はなく、職場や家族構成、子供の健康状態等を願書に記入して各保育所に直接申込む。また、日本のように収入等に応じて支払う保育料が変化することはなく、どの家庭にも一般的に同額の保育料が請求される（その代わり児童手当の額が異なる）。保育にかかる料金は、上で述べた週15時間の無料初期教育の補助金があっても日本よりかなり高額である。以下、オックスフォードにある2つの保育所の利用料金を紹介する。

表D：2012年度保育所利用料金（3歳児以上の場合）

	月額 (全日×4週間)	1日料金 (午前+午後)	半日料金 (午前)	半日料金 (午後)
Nursery A	£848 (約135700円)	£45 (約7200円)	£25.25 (約4000円)	£23.25 (約3700円)
Nursery B	£860 (約137600円)	£51 (約8200円)	£26.25 (約4200円)	£26.00 (約4200円)

\* 1ポンド：160円で計算（2013年11月14日の為替レートによる）

資料：各保育所の案内パンフレットより



上記のように保育所によって若干料金設定も異なり、中には Full-time (5days)：£752.26、Part-time (3days)：£493.87、Part-time (2days)：£329.24 という料金区分しか提示していない保育所もある<sup>8</sup>。2013年度の料金は数ポンド上がっており、3歳未満の保育料金もさらに数ポンド高い料金設定となっているが、同じ保育所に兄弟（姉妹）がいたり、関連施設で保護者が働いていれば、保育料の10%程が割引される場合もある。保育所の運営時間は、通常8時から18時までであるが、7時から18時半まで開いているところも多い。ただし、日本のように18時半以降の延長保育や土曜日に運営しているところはほとんどない。

また、イギリスの保育所の施設に関しては、日本と類似しているところも多い。以下、著者が訪問したオックスフォードにある保育所の施設を写真とともに紹介する。ほぼ全ての保育所は安全上の理由からインターホンで保護者を確認してから開錠され、この保育所では玄関から受付を通過して二つ目の施錠付き扉を開けると以下の図14のような共同スペースがある。日本と同様に子供の年齢によってクラス分けがなされており、この保育所では、以下のような人数構成となっている。

表E：Oxford の保育所におけるクラス定員とその年齢（一例）

クラス名	児童年齢	定員 (実際の受入れ人数)
Ladybird A	0歳児	約10名
Ladybird B	0－1歳児	約15名
Ladybird C	1－2歳児	約15名
Butterfly	2－3歳児	約25名
Dragonfly	3－4歳児	約25名
合計		約90名

(2013年11月現在)

図14：保育所の施設A



図15：保育所の施設B



8 Jack Straws Lane Nursery ホームページ (<http://www.admin.ox.ac.uk/childcare/nurseryinformation/jackstrawslane/>) 参照。



保育所の屋外施設に関しては、図15のように遊具が設置されているところがほとんどであるが、敷地全体は日本の保育所より若干狭いところが多く、運動場と呼べるほどの大きなグラウンドや屋内でも児童全員が集まれるようなホール（大教室）があるところはほとんどない。

図17：保育所内の様子B



図16：保育所内の様子A



保育所の内装や活動内容、毎日の流れなど、場所によって多少異なると思われるが、著者が訪問した保育所のほとんどは日本の保育所と多くの類似点が見られた。例えば、図16、17からわかるように、子供の顔写真のついたステッカーがカバンや上着掛け、個人用引出しなどに貼られており、字が読めない子供でも自分の場所が分かるように工夫されている。また、活動内容も、日本の保育所と同様に季節に応じた活動が取り入れられ、ハロウィンやクリスマス関連の催しも行われている。1日の流れも保育所によって多少の違いはあるが、10時と15時頃に軽食（スープ、サンドイッチ、フルーツ、ヨーグルトなど）、11時半頃に昼食が提供され、子供の習慣に応じて昼寝（昼食後から2時間弱）というスケジュールで日本の保育所と類似しているが、生活面での大きな違いは、玄関先でも靴を脱ぐ場所はなく、子供たちは昼寝の時間以外は終日土足で過ごすという点である。

このように、本研究の調査として Children's Centre やイギリスの保育関連施設を訪問することにより、イギリスで提供されている子育てサービスの現状を把握することができた。Children's Centre に関しては、オックスフォードだけでも44ヶ所存在し、近隣地域に住むかなりの人が利用していることがわかった。また、毎日の活動も妊婦や父子を対象にしたものもあり、非常に豊富で充実した内容となっている。施設そのものも十分広く、立地条件も良く、施設内にも子供の遊具だけでなく、子育てに関する情報が掲載されたパンフレット等、前章で述べたとおり、総合的な子育て支援に関するサービスが提供されていることが確認できた。しかし、イギリスの保育所に関しては、日本の保育所と同様の課題を抱えていることも判明した。特に3歳児以下の子供の受け入れに関する需要が高く、

約15年前に開始したブレア政権による保育政策により保育所が増設されていても、1年前から出願しないと受入れが難しいのが現状である。また、出願方法も各保育所に提出することになっており、日本のように一括して地方自治体が出願状況を管理するほうが、保護者や保育所にとって無駄な作業も省けて利点も多いと感じた。その上、保育料金に関しても、イギリスで3-4歳児対象に無料初期教育が導入された今でもなお、日本の保育料の約二倍かそれ以上であり、公的保育サービスの拡大が実施されたとはいえ、1998年の「全国チャイルド・ケア戦略」で提示された目標の一つである「経済的に負担可能な保育サービスの提供」が達成されたとは言い難い。したがって、Children's Centre や Play Group のような地域に開かれた保育施設は日本に比べて子育て支援サービスの提供が進んでいると感じたが、保育所に関しては日本と同様の施設が多く、また、同類の課題を未だに抱えていることが明らかになった。

#### Ⅳ まとめにかえて

第Ⅰ章ではイギリス政府による子育て支援政策を社会の流れとともに紹介したが、特にブレア政権が実施した数々の保育政策により、子育て環境を充実させる画期的な取組みが数多くなされてきたことが理解できる。その効果もあってか、イギリスでは2007年に合計特殊出生率<sup>9</sup>が約1.9人となり「ベビー・ブーム」の到来<sup>10</sup>が話題となった。その後、2012年においても同じ出生率を保持している<sup>11</sup>。それに対して、日本では1970年代以降、女性の出生率は年々低下し、2005年度の合計特殊出生率は過去最低の1.26を記録した。その後、2008年度以降は1.37以上を保持し、2012年度には16年ぶりに1.4に上昇した<sup>12</sup>。しかしながら、人口を維持するには最低でも2.08以上の合計特殊出生率が必要とされるので、厳しい少子化傾向にあるといえる。日本でも少子化問題を解決しようと、政府は様々な子育て支援政策を実施してきたが、今でも都市地域を中心に保育所に入所できない待機児童が4.6万人（2012年10月）<sup>13</sup>と大量に発生している。日本では、保育園児数が幼稚園児数を上回る幼保逆転が生じており、特に3歳児未満の保育体制が未だ十分整備されていない（池谷 2011）。イギリスで訪問した保育所も0-2歳児が約40名おり、受け入れ定員全体の40%以上を占めていた。わが国の子育て支援における課題として、保育所の待機児童対

9 合計特殊出生率：一人の女性が一生の間（15歳-49歳の間）に生む子どもの数。厚生労働省のホームページ（<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai11/sankou01.html>）参照。

10 ベビーブーム到来：The Independent（2009年8月28日付）は「ベビー・ブームによる英国の人口の記録的な伸び」を報告。

11 世界人口統計：WHO World Health Statistics 2012（[http://www.who.int/gho/publications/world\\_health\\_statistics/2012/en/](http://www.who.int/gho/publications/world_health_statistics/2012/en/)）参照。

12 人口動態統計：厚生労働省ホームページ（<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html>）参照。

13 保育所入所待機児童数：厚生労働省（<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002yapj.html>）によれば、2012年10月保育所入所待機児童数は、46,127人で2011年10月と比較し493人減少した。

策、公立保育所の民営化をめぐる問題、幼保の連携・一元化、地域における子育て支援の強化、などが取り上げられてきた（岩間 2006）。イギリスの保育政策は、北欧諸国等に比べかなり遅れていたものの、ブレア政権下において抜本的な政策が展開され、我が国と共通する課題を解決に導いてきたといえる。2007年6月に10年間続いたブレア政権は終了したが、特に子育て支援を充実させたことで社会に大きく貢献し、保育サービスの向上だけでなく、女性の就業率や合計特殊出生率の上昇にも大きな影響を与えたといえる。我が国においても上で述べた課題を解決していくにあたり、明確な目標を設定し、国全体が統合的な改革を実施していく必要があるといえる。

## Appendix

## Weekly Programme Autumn 2013



Cope Lane, Oxford. OX3 0AY Tel: 01865 767460 email:marstonnorthwaychildrenscentre@oxfordshire.gov.uk



**Sure Start**

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday	Coming Soon
<p><b>Stay &amp; Play</b> 9.30am-12.45pm Lunch for a small charge</p> <p> <b>Health Visitor Drop-in</b> 10.30am-11.30am</p> <p><b>Mobile Library</b> Fortnightly from 11.30am 12.20pm</p> <p><b>Baby &amp; Me</b> Started 16<sup>th</sup> Sept 10.00 - 11.00am for 6 weeks, new mums with 6-8wk old babies, please book at</p> <p><b>The Baby Café</b>  12.00am-2.00pm</p> <p><b>Midwife</b> 1.00pm-4.00pm call the centre to book an appointment</p>	<p><b>Peep</b> Started 1<sup>st</sup> October for 10 weeks. Pre-booked group for 1-2 year olds 9.15am-10.30am</p> <p><b>Stay &amp; Play</b> 10.30am-12.30pm Lunch provided by the Oxford Foodbank.</p> <p><b>Childminders Group</b> 9.00am-11.00am Networking and half hour singing session. (Last Tuesday of the month)</p> <p><b>Speech and language therapist.</b> Available by appointment only</p> <p><b>Polish Tuesdays</b> Group for Polish families, singing, reading and playing in Polish. 3.30pm – 5.30pm. 2<sup>nd</sup> Tuesday of the month from September</p> <p><b>English as a second Language</b> At the Children's Centre Starting 24<sup>th</sup> Sept 1pm-3pm, book your place at the centre, crèche available</p>	<p><b>Babies &amp; Bouncers</b> Group for new mums 10.00am- 11.00am</p> <p><b>OXPIP (Oxford Parent Infant Project)</b> One-to-one post natal support 1.00pm-4.00pm By referral</p> <p><b>Pre-school Parenting</b> Started 25<sup>th</sup> Sept for 10wks 12.30-2.30pm Parenting Course</p>	<p><b>Stay &amp; Play with Singing</b> 11.00am-1.30pm – singing at 11.45am Lunch provided by the Oxford Foodbank</p> <p> <b>Midwife Drop-in &amp; Breast Feeding Support for newborns</b> 10.00am-12.00pm call the Centre to book an appointment</p> <p><b>Hippies</b> Support group for parents and carers of children with SEN 1<sup>st</sup> Thursday of month 9.30am-11.30am</p> <p><b>H.I. – Hearing Impairment</b> Support group for parents and carers 2<sup>nd</sup> &amp; 4<sup>th</sup> Thursday of month 9.30am – 11.30am</p> <p><b>Gems</b> Stay &amp; Play session for children and families who have additional needs. 3<sup>rd</sup> Thursday of month 9.30am – 11.00am</p> <p><b>Baby Massage</b> Starting in November 12.00pm – 1.00pm, 4 sessions, for babies 6 weeks – 6 months, book your place at the centre.</p>	<p><b>Marston Northway &amp; North Oxford Young Parents Group</b> (under 19s) Speak to Tracy/Phil for further information. 10.45am – 1.15pm – lunch included</p> <p><b>Zumba class</b> 9.15am – 10.30am. £2.50 per session or £20 in advance for 10 wks, crèche available at the centre, started 27th September</p> <p><b>Friday Drop In</b> (Parents/carers from St. Nicholas School and Marston Childrens Centre) Daisy Class at St Nicholas School, 9.00am – 10.30am (term-time only)</p>	<p><b>Ante-Natal Parent Craft Class</b> 2<sup>nd</sup> Saturday of every month 9.30am– 12.30pm (Midwifery service)</p> <p><b>Dynamic Dad's</b> 2<sup>nd</sup> Saturday of the month 10.00am – 12 noon. Brunch available for a small charge. All male carers come along and have fun with the children.</p> <p><b>Nov 9<sup>th</sup> – Nov 9<sup>th</sup></b> Football session with little kickers</p>	<p>Lots of craft and outdoor activities during our stay and play sessions Our weekly themes : 21<sup>st</sup> Oct Letters 28<sup>th</sup> Oct Pumpkins 4<sup>th</sup> Nov Diwali 11<sup>th</sup> Messy Play</p> <p><b>Family Learning Week</b> Join us in November for a range of family learning workshops</p> <p>Mon 11<sup>th</sup> Nov – Little Magic Train Tues 12<sup>th</sup> Nov - Saltbox Thurs 14<sup>th</sup> Nov – The Goldman Story Teller</p>

## 参考文献

- Alcock, P. (2003). *Social Policy in Britain*. 2<sup>nd</sup> edition. Basingstoke, Palgrave: MacMillan.
- Brind, R., Norden, O., McGinigal, S., Oseman, D., & Simon, A. (2012) *Childcare and Early Years Provider Survey 2011*. Department for Education. Official Statistics Research Report (DfE RR240). Ivana La Valle: NCB Research Centre.
- Cohen, B., Moss, P., Petrie, P. & Wallace, J. (2004). *A New Deal for Children?: Re-forming education, and care in England, Scotland, and Sweden*. Bristol: Policy Press.
- DfES (Department for Education and Skills) (2001) Statistics of Education: Children's Day Care Facilities. *National Statistics Bulletin*, No. 08(1). Norwich: DfES.
- Henshaw, D. (2006) *Recovering Child Support: routes to responsibility*. Report to the Secretary of State for Work and Pension (Cm6894). Norwich: The Licensing Division.
- Hill, M. (2006). British Social Policy under the Blair Government. 「社会政策学会誌第15号」法律文化社 pp. 146-173.
- Lewis, J. & Campbell, M. (2007). Work/Family Balance Policies in the UK since 1997: A New Departure? *Journal of Social Policy*, Vol.36, No.3, pp365-381.
- OFSTED (Office for Standards in Education) (2003) *Registered Childcare Providers and Places in England, 31March, 2003*. London: OFSTED.
- OFSTED (Office for Standards in Education) (2005) *Quarterly Childcare Statistics as at: 31December 2005*. London: OFSTED.
- Seldon, A. & Kavanagh, D. (2005) *The Blair Effect 2001-5*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Skinner, C. (2005). Childcare. In J. Bradshaw. & E. Mayhew. (Eds.), *The Well-being of Children in the UK*. 2<sup>nd</sup> edition. London: Save the Children.
- 池谷江理子 (2011) 「イギリスにおける子育て支援政策－ロンドンにおける実態調査から－」『高知工業高校専門学校学術紀要 第56号』 pp. 17-30.
- 岩間大和子 (2006) 「英国ブレア政権の保育政策の展開－統合化、普遍化、質の確保へ－」『レファレンス』 pp. 6-34.
- 須貝優子 (2009) 「イギリスにおける子育て支援政策－保育サービスの現状－」『社会学研究論集第14号』 pp. 6-34.
- 所道彦 (2007) 「ブレア政権の子育て支援策の展開と到達点」『海外社会保障研究第160号』国立社会保障・人口問題研究所 pp. 87-98.
- 平岡公一 (2003) 『イギリスの社会福祉と政策研究：イギリスモデルの持続と変化』 ミネルヴァ書房
- 埋橋玲子 (2007) 『チャイルドケア・チャレンジ：イギリスからの教訓』 法律文化社
- 山田敏 (2007) 『イギリスの就学前教育・保育の研究』 風間書房

## 参照ウェブサイト

- Directgov: <http://local.direct.gov.uk/>
- Every Child Matters.co.uk: <http://www.everychildmatters.co.uk/>
- GOV.UK: <https://www.gov.uk/>
- Jack Straws Lane Nursery: <http://www.admin.ox.ac.uk/childcare/nurseryinformation/jackstrawslane/>
- Office for National Statistics: <http://www.ons.gov.uk/ons/index.html>
- OFSTED: <http://www.ofsted.gov.uk/>
- Oxfordshire County Council: <http://www.oxfordshire.gov.uk/cms/public-site/children-education-and-families>
- The National Archives, Department of Education: [http://webarchive.nationalarchives.gov.uk/20130401151655/http://www.education.gov.uk/researchandstatistics/statistics/allstatistics?f\\_publication\\_category=Early+Years+education+and+child+care&page=1](http://webarchive.nationalarchives.gov.uk/20130401151655/http://www.education.gov.uk/researchandstatistics/statistics/allstatistics?f_publication_category=Early+Years+education+and+child+care&page=1)
- WHO World Health Statistics 2012: [http://www.who.int/gho/publications/world\\_health\\_statistics/2012/en/](http://www.who.int/gho/publications/world_health_statistics/2012/en/)
- 厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/>